

小 学 校

平成 2 5 年度

教育研究員研究報告書

体 育

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究構想図	2
IV	研究の内容	3
	1 調査研究	
	(1) 調査の目的	3
	(2) 調査の方法	3
	(3) 調査の結果	4
	(4) 考察	4
	2 研究の視点に基づいた内容	
	(1) 課題解決的な学習の進め方の工夫	5
	(2) 指導方法の工夫	6
	(3) 指導と評価の計画の工夫	8
	3 実践事例	
	(1) 低学年部会（第2学年）	
	ア 単元の目標	10
	イ 単元の評価規準	10
	ウ 本時案	11
	エ 指導と評価の計画（第2学年）	12
	(2) 中学年部会（第4学年）	
	ア 単元の目標	14
	イ 単元の評価規準	14
	ウ 本時案	15
	エ 指導と評価の計画（第4学年）	16
	(3) 高学年部会（第5学年）	
	ア 単元の目標	18
	イ 単元の評価規準	18
	ウ 本時案	19
	エ 指導と評価の計画（第5学年）	20
V	検証授業の結果及び考察	22
VI	成果と課題	24

研究主題「運動の楽しさや喜びを味わい、 一人ひとりが技能の伸びを実感できる体育学習」

～跳び箱を使った運動遊び・跳び箱運動の学習を通して～

I 研究主題設定の理由

平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申において、運動する子供とそうでない子供の二極化や子供の体力の低下傾向が依然深刻であること、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていないことなどが体育科の課題として指摘されている。

東京都では、平成 24 年度東京都統一体力テストの結果において、学年が上がるにつれ運動やスポーツが嫌いという回答する児童が増えること、運動することが得意という回答する児童は男女ともに第 3 学年をピークに学年が上がるにつれて減少していることが明らかになった。また、平成 24 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果において、体育の時間以外には運動をほとんどしない児童が運動やスポーツをしない理由として、「運動が苦手な自信がないから」と回答する割合が男女ともに高くなっている。

これらの現状を踏まえると、今後、運動を苦手と感じる児童が運動の楽しさや喜びを味わえるように体育授業の改善を図ることが一層求められる。特に、児童が自信をもって体育学習に取り組むためには、「できる」ことや「上手になる」経験を多く積めるよう指導方法を工夫する必要がある。「できた」「上手になった」ことを実感することで、児童はより意欲的に運動に取り組むようになると考える。また、進んで運動に取り組み、児童が自ら考え工夫しながら、動きや技能を身に付けられるようにするためには、指導と評価の計画を工夫することが大切である。

そこで小学校体育部会では、研究主題を「運動の楽しさや喜びを味わい、一人一人が技能の伸びを実感できる体育学習」と設定し研究を進めることとした。研究領域は、「できる」「できない」がはっきりしており、全ての児童に動きや技を身に付ける喜びを味わわせる授業が必要な、器械運動領域系の跳び箱を使った運動遊び及び跳び箱運動とした。

II 研究の視点

本研究は、運動を苦手と感じる児童、運動することに前向きでない児童及び技能面において「努力を要する」状況と判断される児童に焦点を当て、運動の楽しさや喜びを味わわせるとともに、動きや技能が伸びる指導の在り方を明らかにするために、以下の 3 点の視点から研究を進めた。

1 課題解決的な学習の進め方の工夫

自己の運動の課題を解決する楽しさを味わうとともに、動きや技能の伸びを実感することができるよう課題解決的な学習の進め方を工夫する。

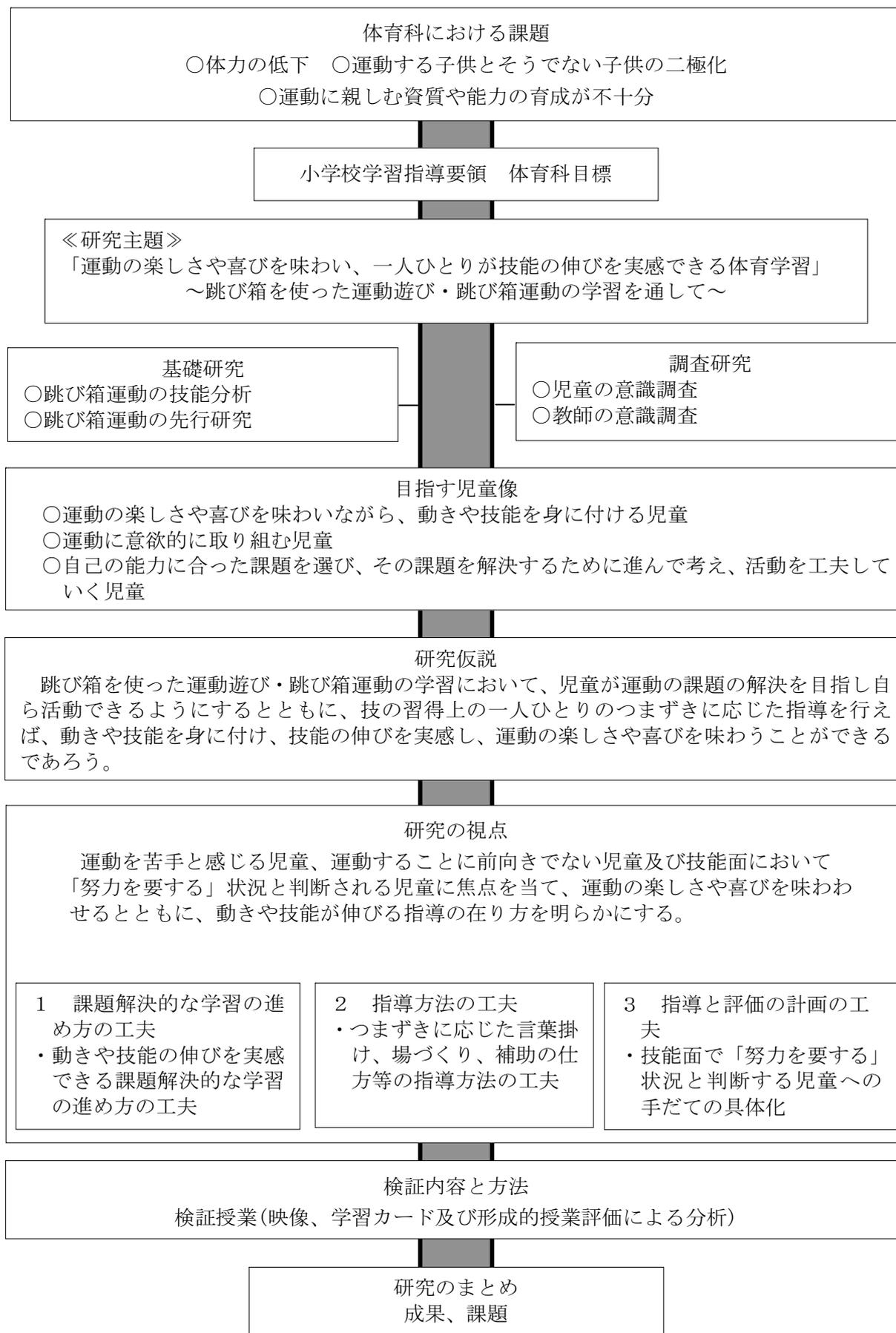
2 指導方法の工夫

動きや技能を身に付けるために、言葉掛け、場づくり、補助の仕方等の指導方法を工夫する。

3 指導と評価の計画の工夫

学年ごとの指導と評価の計画に、「努力を要する」状況と判断される児童への手だてを具体化する。

Ⅲ 研究構想図



IV 研究の内容

1 調査研究

(1) 調査の目的

跳び箱運動における児童及び教師の意識を調査し、本年度の研究を進めていく上での基礎資料とする。

(2) 調査の方法

ア 調査期間 平成 25 年 10 月 1 日から平成 25 年 10 月 20 日まで

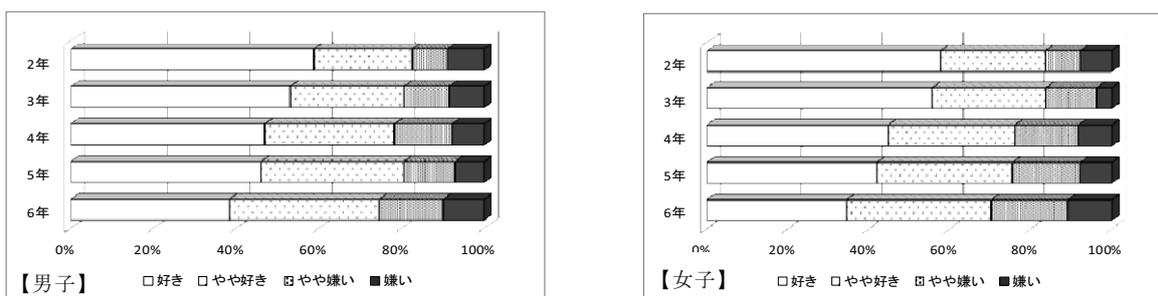
イ 調査方法 質問紙法による

ウ 調査対象と対象者数 ※対象は研究員所属校

	〈児童〉						〈教師〉
	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計	担任経験者 計 2 2 8 人
男子	6 1 1 人	5 9 4 人	6 3 2 人	6 9 2 人	6 1 7 人	3 1 4 6 人	
女子	5 4 6 人	5 0 3 人	6 0 2 人	6 1 5 人	6 4 2 人	2 9 0 8 人	

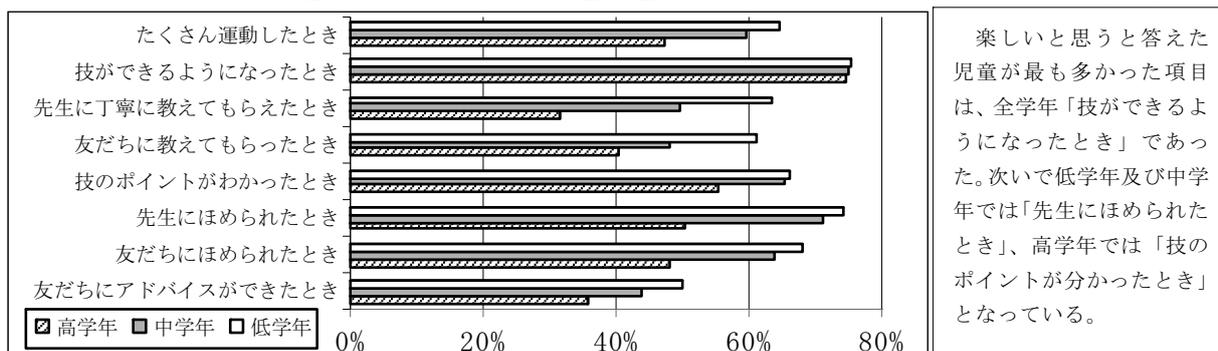
(3) 調査の結果

ア 児童 1 跳び箱運動（跳び箱を使った運動遊び）は好きですか。

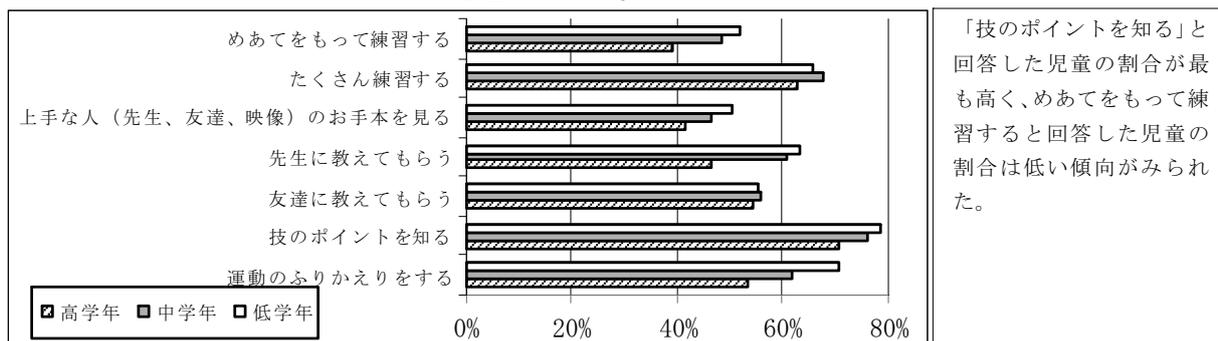


男女ともにすべての学年 70%以上の児童が「好き」「やや好き」と答えた。学年が上がるにつれて、「やや嫌い」「嫌い」と回答する児童が増加する傾向がみられた。その理由（記述）からは、「運動がうまくできないから」が最も多く、次いで、「怪我をしたり痛い思いをしたりしたことがあるから」「できているのか自分では分からないから」が多かった。

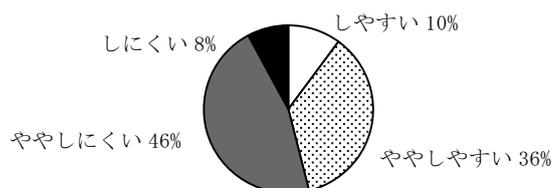
イ 児童 2 跳び箱運動（跳び箱を使った運動遊び）で次のような時は楽しかったですか。



ウ 児童 3 跳び箱運動（跳び箱を使った運動遊び）で、どうしたら技ができるようになったり上手になったりすると思いますか。

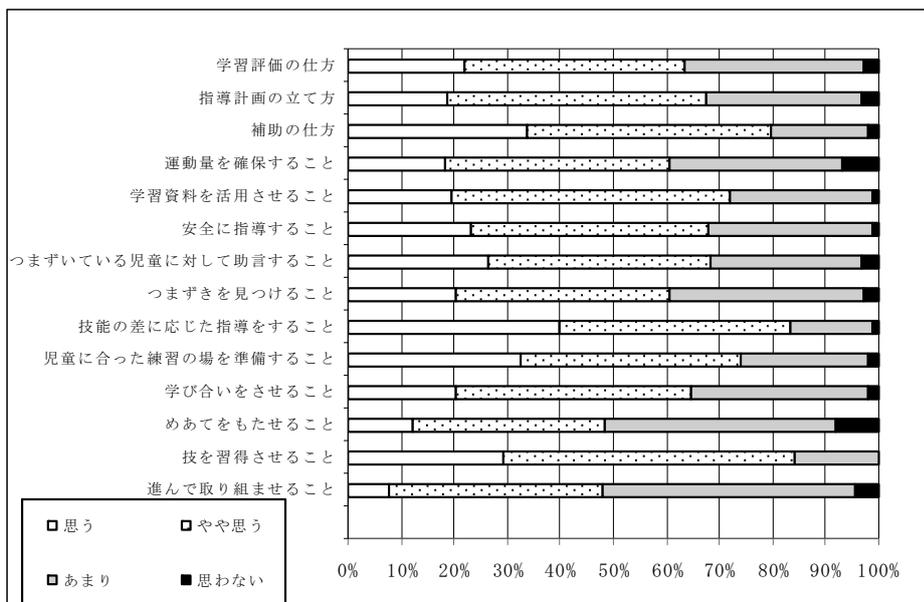


エ 教師 1 跳び箱運動（跳び箱を使った運動遊び）は指導しやすいですか。



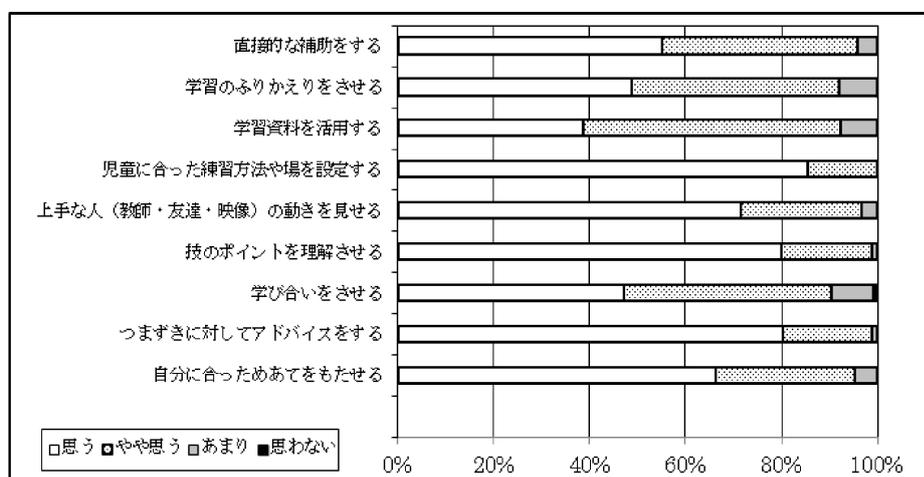
「やや指導しにくい」「指導しにくい」と答えた教師が54%と、「指導しやすい」「やや指導しやすい」を上回った。

オ 教師 2 跳び箱運動（跳び箱を使った運動遊び）の指導で難しいと感じることは何ですか。



「技を習得させること」と回答した割合が最も高く、次いで「技能の差に応じた指導をすること」であった。また、「補助の仕方」や「児童に合った練習の場を準備すること」が難しいと感じている教師が多いことが分かった。

カ 教師 3 次にあげる項目は、技をできるようにするために必要だと思いますか。



技ができるようにするために、「学び合いをさせること」「学習資料を活用すること」「学習の振り返りをさせること」が必要だと思うと回答した教師の割合は50%未満であった。

(4) 考察

学年が上がるにつれて跳び箱を使った運動遊び及び跳び箱運動を嫌いと感じる児童が多くなる。また、児童は技が「できる」ようになったときに楽しいと感じていることが分かる。跳び箱を使った運動遊び及び跳び箱運動の学習を通して、「できた」「上手になった」という体験を多く積めるように指導の工夫改善が求められる。一方、教師は技を習得させることに難しさを感じている。児童が運動の楽しさや喜びを味わい、確実に動きや技能を身に付けるためには、発達の段階や技の系統性を踏まえた、各学年での適切な指導が求められる。特に、技能面で「努力を要する」状況と判断される児童については、指導計画を立てる際に、児童のつまづきを予想し手立てを講じる必要がある。本部会では、跳び箱運動が苦手と感じている児童や技能が十分に身に付いていない児童の動きや技能の習得に焦点を当てた指導計画や指導方法について研究を進め、できる喜びを味わわせたいと考える。

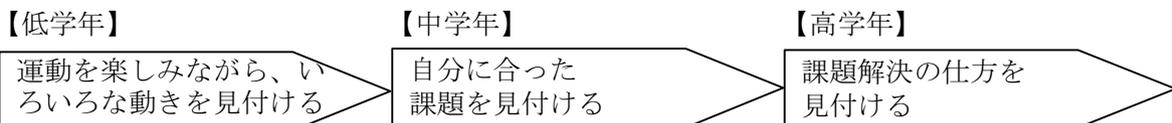
2 研究の視点に基づいた内容

(1) 課題解決的な学習の進め方の工夫

児童が自らの課題をもち、その解決に向けて活動していく課題解決的な学習は、「思考・判断」の力を高めるだけでなく、技能の伸びを実感し、運動の楽しさや喜びを味わう上で大切である。本部会では、運動を苦手と感じる児童や運動することに前向きでない児童、技能面で「努力を要する」状況と判断される児童が、自己の運動の課題を解決する道筋を知り、見通しをもって学習を進めていくことで、運動することの楽しさを味わい、動きや技能を身に付けることができるようにしたいと考えた。

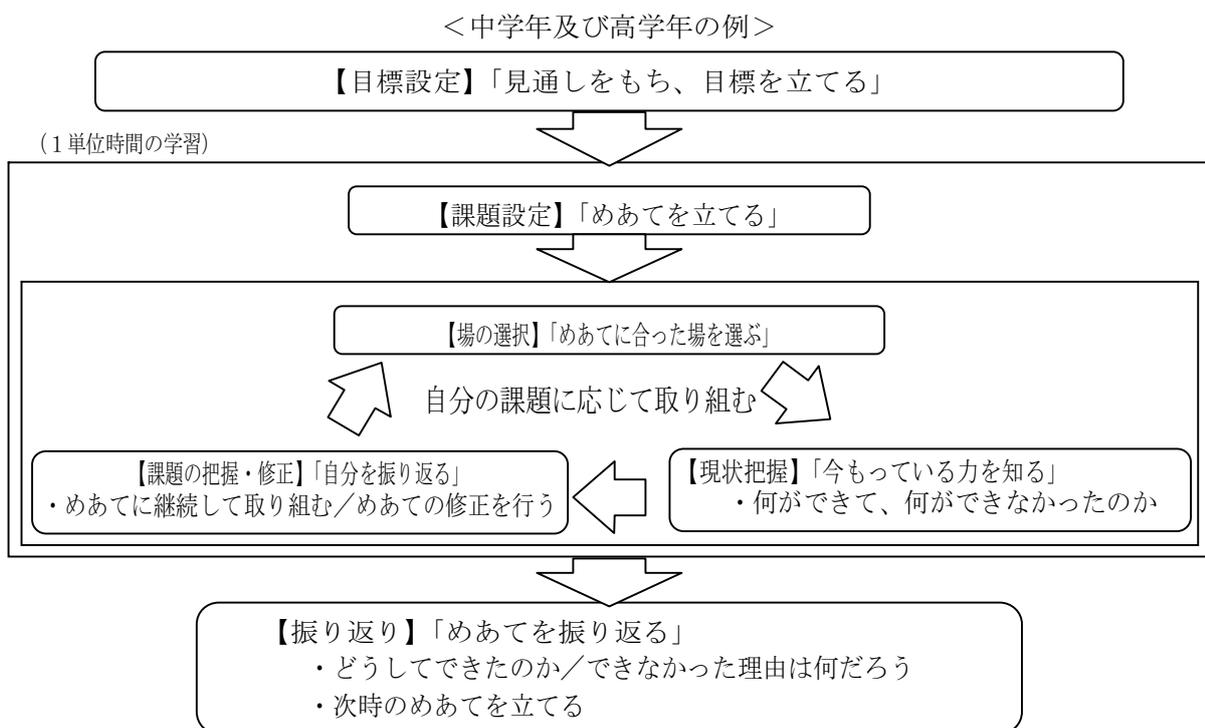
ア 課題解決的な学習を進める上での留意点

課題解決的な学習を進める上で、学習の進め方や技のポイント等の情報を児童に示し指導することが必要となる。そのため、オリエンテーションや授業の前半に技能ポイントや運動の行い方等について指導する。また、学習カードや掲示資料を準備するとともに、見合い、教え合う中で課題の解決が図れるようペアやグループで活動させる。さらに、児童が自分の学習課題をめあてとして学習を進める際の、重点とするねらいを下に示した。



イ 課題解決的な学習を進める学習の流れ

はじめに自分の目標を設定する。そして、自分のめあてを決め、学習資料等を活用し課題に合った場を選択し運動に取り組む。活動する中で、めあてが適切でないと考えたときは、めあてを修正して取り組む。授業の終わりに活動を振り返り、次時のめあてを設定する。この学習を進めるに当たっては、教師が意図的、計画的に指導していくことが重要である。



(2) 指導方法の工夫

ア 技能分析を基にした指導方法の工夫

つまずきとその原因を整理するとともにつまずきに応じた指導のポイントを明確にするため、低学年は小学校学習指導要領解説体育編に例示された動きごとに、中学年及び高学年は技の局面（踏み切り・着手・空中動作・着地）ごとに技能分析をした。また、教師用の事前アンケートから「技の習得」「技能差に応じた指導」「補助の仕方」など技の習得に向けた指導の困難さが見て取れたことを踏まえ、補助や言葉掛け、取り組む場など指導の手だてを明らかにするとともに、それらを一覧にまとめた。

イ 段階的な指導の工夫

児童が自分の力に応じた動きや技を確実に習得することができるよう段階的に指導することとした。具体的には、一単位時間の中で必ず全員が「感覚づくりの運動」や、「技に関連した易しい運動等」に取り組むことができるようにした。その後、動きや技を習得するために「場」を段階的に用意し、児童のつまずきに応じて選択し取り組ませるようにした。

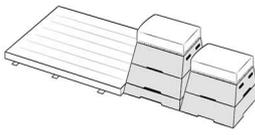
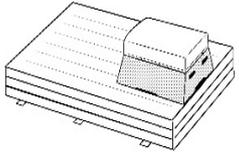
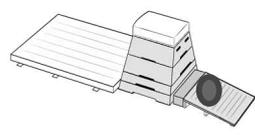
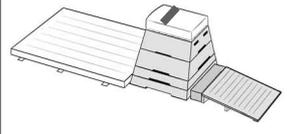
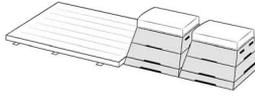
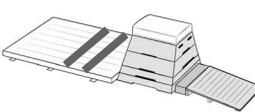
ウ 予想される児童のつまずきを基にした具体的な指導例

本部会では、技能分析及び検証授業実施前に記録した児童のビデオ映像を基に、それぞれの技のポイントを整理し、予想されるつまずきを明らかにし分類した。例えば、開脚跳びにおいては、技の局面を4つに整理し、つまずきを技の局面ごとに9つに分類した。ビデオ映像から、着手の局面で手の突き放しの弱い児童は、空中姿勢の腰の位置も低くなり、このことが跳び箱にまたがってしまう1つの原因であることが分かった。そこで、開脚跳びにおいては、着手の局面を特に大切なポイントととらえ、遠くに手を着くことや、手で強く突き放すことの2つの動きを指導し、その動きを一連の動作で行うことができるよう計画した。指導する際は、2つの動きを先に経験し、その後、一連の動作で練習に取り組むことができるよう場の順序性を考え、段階的に指導できるようにした。

(ア) 開脚跳びのポイント



(イ) 予想される児童のつまずき及び具体的な指導例

技		つまずき	場	言葉掛け	補助又は用具	
開脚跳び	跳び越すことができない児童	段階的な指導 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	<ul style="list-style-type: none"> 跳び箱に手を着いた時にすべる。 着手がバラバラになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高低差のある連結 	<p>「両手同時に着いて、肘を伸ばそう。」</p> <p>「上から『バン』と手を着こう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 腕の付け根を支え、腿の裏を押す。 
		<ul style="list-style-type: none"> 腰が上がらない。 		<p>「踏切で弾みをつけて跳び越そう。」</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> お尻が跳び箱に当たってしまう。 		<p>「強くバンと突き放そう。」</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> 上の3つはできるが、跳び箱を跳び越せない。 	<ul style="list-style-type: none"> マット+1段 	<p>「着いた手よりも肩を前に出そう。」</p>		
	跳び越せるが動きに課題のある児童	踏み切り	<ul style="list-style-type: none"> 両足で踏み切ることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 平場 	<p>「踏切板の目印のところで『バン』と、両足で踏み切ろう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 踏切板に目印を付ける。
		着手	<ul style="list-style-type: none"> 跳び箱の手前に手を着いてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 平場 	<p>「手をラインより奥に着こう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 着手する位置に目印を付ける。
		空中動作	<ul style="list-style-type: none"> 跳び越すときに体が斜めに傾く。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ高さの連結 	<p>「両手をそろえて、『バン』と跳び箱をたたこう。」</p>	
		着地	<ul style="list-style-type: none"> 着地が跳び箱に近い。 着地のときに体勢が崩れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平場 	<p>「手を突き放して目印まで跳ぼう。」</p> <p>「両足で同時に着地してみよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 着地する位置に目印を付ける。

(3) 指導と評価の計画の工夫

ア 学習過程の工夫

運動を苦手と感じる児童、運動することに前向きでない児童、技能面で「努力を要する」状況と判断される児童が、楽しく活動したり、動きや技能を身に付けたりすることができるよう、学習過程を検討した。

指導と評価の計画の作成に当たっては、予想される児童のつまずきを想定し、技能面を中心とした具体的な手だてを講じることで、運動の楽しさや喜びを味わえるようにした。また、低学年では、運動のこつに対して、具体的な教師の助言や指導ができるように、中学年及び高学年では、繰り返し系、回転系の技のポイントをつかませることができるようにした。

<低学年の例>

	前半			後半	
オリエンテーション	感覚づくり				
	【着地】 ・こつを見 付ける	【着手】 ・こつを見 付ける	【踏み切り】 ・こつを見 付ける	自分で取り組みたい 場を選択して 動きに取り組む	
	場をローテーション いろいろな動きに取り組む				

<中学年の例>

	前半		後半	
オリエンテーション	感覚づくり			
	繰り返し系 易しい場での運動	回転系 易しい場での運動	繰り返し系 易しい場での運動	回転系 易しい場での運動
	繰り返し系 ポイントを知る	回転系 ポイントを知る	繰り返し系 自分の課題に	回転系 自分の課題に
	繰り返し系 場を選んで練習	回転系 場を選んで練習	合った練習	合った練習

<高学年の例>

	前半		後半		
オリエンテーション	感覚づくり				
	繰り返し系 易しい場での運動	繰り返し系 自分の課題に 合った練習	回転系 易しい場での運動	回転系 自分の課題に 合った練習	繰り返し系 又は 回転系の 場を選んで 練習
	繰り返し系 ポイントを知る		回転系 ポイントを知る		
	繰り返し系 場を選んで練習		回転系 場を選んで練習		
ミニ発表					

イ 指導と評価の計画作成上の考え方

低学年は、易しい運動遊び、中学年・高学年は、易しい場や条件のもとで意欲的に運動に取り組むことができるようにするとともに、器械運動の技と関連のある動きを毎時間取り入れ、基礎となる感覚や動きを身に付けることをねらい、指導と評価の計画を作成した。また、技能面での児童のつまずきを予想し、一単位時間ごとにつまずきに応じた手だてを示し効果的に指導ができるようにした。さらに、自ら考え工夫する楽しさを味わうとともに、動きができる喜びを味わうことができるよう課題解決的な学習を位置付けた。

(ア) 低学年

単元の前半、基本的な動きを知る時間を設定し、全員に経験させたい動きを毎時間1つずつ取り上げ、基本的な動きを身に付けたり、良い動きを見付けたりすることができるようにした。また、どの児童も楽しみながら取り組める場を工夫し、全ての場を経験できるよう設定した。単元の後半では、子供たちが工夫して活動できるよう場や遊び方を選ぶ時間を設定し、楽しく運動遊びに取り組む中で基礎となる感覚や動きを身に付けることができるようにした。

(イ) 中学年

中学年では、運動に苦手意識をもたず前向きに取り組むことができるように技に関連した易しい場や条件のもとで運動に取り組む時間を、単元を通して設定した。単元の前半では、基本的な技のポイントを知る時間を設定し、運動の行い方や場の選択など課題を解決するために必要な知識を身に付けることができるようにした。また、工夫した場を選んで練習する時間に、ペアやグループで運動のポイントを見合いながら技に取り組むことで、自分に合った課題を見付けることができるようにした。単元の後半では、自分の課題に応じた練習の時間を設定し、単元前半の学習を基にして、場や練習方法を選び基本的な技に取り組むこととした。また、基本的な技の習得を図ることができた児童は、発展的な技に取り組むことができるよう計画した。

(ウ) 高学年

高学年では、単元前半は、繰り返し系の技のポイントを知り、場を選んで練習する時間及び自分の課題に合った技に取り組む時間を設定した。単元後半は、回転系の技のポイントを知り、場を選んで練習する時間及び自分の課題に合った技に取り組む時間を設定するとともに、単元の終わりに、繰り返し系の技、又は回転系の技に取り組む時間を設定した。また、感覚づくりの時間とミニ発表の時間を、単元を通して設定した。児童は同じ繰り返し系（又は、回転系）の技にじっくり取り組むことができるとともに、技能面で「努力を要する」状況と判断される児童も繰り返し技に取り組む中で技を習得することができる考えた。中学年に比べて技の数が多く、運動の技能差や意識差に幅が出てくる高学年では、児童の課題も多様になる。そこで、単元前半の繰り返し系（又は後半の回転系）において、自分の課題に合った練習の場や段階を選んで運動する時間を確保することで、意欲的に活動し課題の解決を図ることができるようにした。

3 実践事例

(1) 低学年部会（第2学年）

低学年部会では、跳び箱を使った運動遊び及び跳び箱運動があまり好きではないと感じている児童が、学年が上がるにつれて増える傾向がある実態を踏まえ、楽しく学習を進める中でどの児童にも「できた」喜びを味わえるよう指導することが大切であると考えた。また、児童が動きを身に付けるために重要なことは、教師が意図的・計画的に準備した場で動きを十分楽しませること、その中で、動きのこつを見付けられるよう、つまずきに応じて指導・助言することと捉えた。さらに、良い動きを発表したり、見合ったりする中で、良い動きを共有することで一人ひとりの動きがより高まると考えた。

ア 単元の目標

技 能	跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りをすることができるようにする。
態 度	運動に進んで取り組み、決まりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	跳び箱を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。

イ 単元の評価規準 ○第1学年及び第2学年共通の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○跳び箱を使つての運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○順番やきまりを守り、仲よく運動しようとしている。 ○友達と協力して、跳び箱の準備や片付けをしようとしている。 ○運動をする場の安全に気を付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○跳び箱を使つての運動遊びの行い方を工夫している。 ○跳び箱を使つての運動遊びの動き方を知るとともに、友達の良い動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○跳び箱を使つての運動遊びを楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び箱を使つての運動遊びに進んで取り組もうとしている。 (観察) ②運動の順番やきまりを守り、友達と仲良く運動をしようとしている。 (観察) ③友達と協力して、跳び箱の準備や片付けをしようとしている。 (観察) ④運動する場や跳び箱の使い方などの安全に気を付けている。 (観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び箱を使った運動遊びの行い方を理解している。 (観察・学習カード) ②跳び箱を使つての運動遊びの動き方を理解している。 (観察・学習カード) ③運動をする場や使用する器械・器具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。 (観察・学習カード) ④跳び箱を使つての運動遊びの動き方を知るとともに、友達の良い動きを見付けている。 (観察・学習カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りなどができる。 (観察)

ウ 本時の学習（6／8時間目）

（ア） 目標

【技能】 跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りができるようになる。

【態度】 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動できるようにする。

【思考・判断】 跳び箱を使つての運動遊びの動き方を知るとともに、友達の良い動きを見付けることができるようにする。

（イ） 展開（※本時では、技能を主として評価する）

主な学習内容・活動	教師の支援（○）評価（☆）評価方法【 】
1 整列・挨拶をする。 2 本時の学習内容を確認する。	○学習の見通しをもたせ、意欲を高める。 ・学習の流れ・取り組んだ動き・場の図
自分が決めた場所で、やってみたい動きに取り組もう。	
3 準備運動をする。 4 感覚づくりの運動に取り組む。 ・手の突き放し ・動物歩き ・かえるの足うち ・背支持倒立 ・前転がり ・馬跳び	○一つ一つの動きをゆっくり行わせるようにする。 ○ゆっくりとしたリズムの音楽に合わせて、行うことができるように合図をする。 ○馬跳びの着手が不十分な児童には、手でしっかり支持をして跳び越えるように言葉掛けをする。 ○着地や着手に気を付けて行うように言葉掛けをする。
5 場の準備をする。 6 自分で取り組みたい場を選び、運動に取り組む。【めあて別グループ】 A 連続岩コース（連続跳び箱） B 一本道コース（連結跳び箱） C ダイビングコース（踏切板＋マット） D がけコース（ステージ） E 着地ピタッとコース（跳び箱3段） F 着地ピタッとコース（跳び箱4段） ・第1ラウンド ・よさの共有タイム ・第2ラウンド ・第3ラウンド	○生活班で協力して準備できるように言葉掛けをする。 ○3回場所を選ぶことを伝える。 （場を変更してもしなくても良い。） ○適宜、良い動きを全体で共有し、価値付ける。 ○良い動きについては1回目選択時の後、紹介する。 ○適宜、動きのポイントについて言葉掛けしたり、補助したりする。 ☆跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りができる。 【技能：観察】
7 整理運動をする。 8 学習の振り返りをする。 9 片付けをする。 10 整列・挨拶をする。	○使った部位をほぐす。 ○自分ができたことや見付けたことを学習カードに記入させる。

エ 指導と評価の計画（第2学年）

時	1	2	3	4	
ねらい	学習のねらいを知ることができる。	いろいろな動きの「こつ」を見付けることができる。			
学習の流れ	0 オリエンテーション 1 学習の進め方を知る 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 馬跳びの仕方を知る 5 器械器具の準備の仕方や約束の確認 6 既習の動きに取り組む 7 良い動きの紹介 8 良い動きを意識して取り組む	1 学習課題の確認 4 共通の動きに取り組む	2 準備運動 5 良い動きの確認タイム	3 感覚づくりの運動	
	45 9 整理運動・片付け 10 本時の振り返り	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>【2時間目】 ピタッと着地をしよう。 →踏み越し跳びに取り組む。 場→A、C、E</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>【3時間目】 手をしっかり着こう。 →支持でまたぎ乗り・またぎ下りに取り組む。 場→A、B、E</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>【4時間目】 力強く踏み切ろう。 →支持で跳び乗り・跳び下りに取り組む。 場→C、D、E</p> </div>	6 場でいろいろな動きに取り組む。（生活班・ローテーション） 7 よさの共有タイム（全体で良い動きや、良いかかわりを共有する） 8 本時の振り返り 9 整理運動・片付け
指導内容	技能				
	態度	・友達と協力して器械・器具の準備や片付けをする。 ・運動する場や器械・器具の使い方などの安全に気を付ける。	・運動の順番やきまりを守り、友達と仲良く運動する。		
	思・判		・跳び箱を使った運動遊びの行い方を知る。 ・跳び箱を使ったの運動遊びの動き方を知る。	・運動をする場や使用する器械・器具などを変えながらの、いろいろな運動の仕方を見付ける。	
評価	関	③④（観察）	②（観察・学習カード）		
	思		①②（観察・学習カード）	③（観察・学習カード）	③（観察・学習カード）
	技				
予想される児童のつまずき及び手だてなど	技能	<p>【馬跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手を着けない。 ○馬に乗れない。 <p>→より易しい場を用意して取り組ませる。</p>	<p>【踏み越し跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高すぎて踏み越せない。 <p>→「1・2・3のリズムで踏み越そう。」 →跳び箱を低くする。 →教師や友達による補助 <ul style="list-style-type: none"> ○踏み切り板の手前で止まってしまう。 <p>→跳び箱を低くする。 →体を投げ出すような感覚を体験させてから踏み越しに挑戦させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○助走を生かせず、手前で失速・着地が不安定 <p>→「同じリズムで踏み越そう。」</p> </p></p>	<p>【またぎ乗り・またぎ下り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブレーキをかけてしまい、前に進めない。 <p>→上腕を支えて浮かんでいる感覚をつかませる。 <ul style="list-style-type: none"> ○着手が片手ずつになったり、ずれたりしてしまう。 <p>→「両手を揃えてまたぎ乗ろう。」 →跳び箱にラインを引く。 <ul style="list-style-type: none"> ○片足で踏み切ってしまう。 <p>→「イチ・ニ・サーンでリズムをとってから踏んでみよう」 <ul style="list-style-type: none"> ○肩が上半身の前に出ないの <p>で、おしりが跳び箱に当たってしまう。 →「前に倒れそうになるくらい肩と頭を出そう。」 →上腕をつかんで押す。</p> </p></p></p>	<p>【支持で跳び乗り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○腰が上がらず、ステージに足をぶつけてしまう。 <p>→踏み切りの後はすぐに膝を胸に近付けよう。</p> <p>【支持で跳び下り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○跳ぶ時に体重が後ろにかかりすぎる。 <p>→教師による補助（手を引く） →「手を何回たたけるか挑戦してみよう」 <ul style="list-style-type: none"> ○両足がそろわない。 <p>→「手を前に出して着地してみよう」 →「膝を曲げてフワッと着地してみよう。」</p> </p>
	態度・思・判		・感覚づくりの運動 →一体感を高め、楽しさを味わわせるために、誰もが簡単に楽しく取り組める感覚づくりの運動に取り組ませる。		

5	6	7	8
自分で取り組みたい場を選択して動きに取り組む。			
1 学習課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 自分で取り組みたい場で、運動に取り組む。【めあて別グループ】 ☆各々のめあてに応じて、場を3回選択する ☆グループ内での教え合いが活発になるように、意図的にグループ指導を行う。 ☆よさの共有タイム（全体で良い動きや、良いかわりを共有する） 第1ラウンド→よさの共有タイム→第2ラウンド→第3ラウンド 5 整理運動 6 本時の振り返り（児童から出た良い動きを教師が価値付ける。/グループでの良いかわり合いを発表し、共有する。） 7 片付け			
・ 飛び乗りや飛び下り、手を着いてのまたぎ乗りや飛び乗り			
・ 飛び箱を使つての運動遊びに進んで取り組む。			
		・ 器械・器具を使つての運動遊びの動き方を知るとともに、友達の良い動きを見付ける。	
①（観察・学習カード）			
		④（観察・学習カード）	④（観察・学習カード）
①（観察）	①（観察）	①（観察）	①（観察）
【馬跳び・タイヤ跳び】 ○おしりが着いてしまう。 →「前に倒れそうになるくらい肩と頭を出そう。」	【支持でまたぎ乗り】 ○片足で踏み切ってしまう。 →「イチ・ニ・サーンでリズムをとってから踏んでみよう。」	【支持で飛び乗り】 ○回転時、横に倒れてしまう。 →「マットの枚数を少なくし、高さを低くする。」	
【踏み越し跳び】 ○助走を生かせず、手前で失速・着地が不安定 →「同じリズムで踏み越そう。」	【支持でまたぎ下り】 ○手より肩が前に出ず、おしりが飛び箱に当たってしまう。 →「前に倒れそうになるくらい肩と頭を前に出そう。」 →上腕をつかんで押す。	【支持で飛び下り】 ○両足がそろわない。 →「手を前に出して着地してみよう。」 →「膝を曲げてフワッと着地してみよう。」	
・ 感覚づくりの運動 →一体感を高め、楽しさを味わわせるために、誰もが簡単に楽しく取り組める感覚づくりの運動に取り組みさせる。			
・ セレクト3 学習への意欲を高めるために、3ラウンドの場を自ら選択する機会を与える。 自分の活動を振り返り、次の活動へと生かす思考力を育むために、1ラウンドごとに場を選び直す時間を設定する。			

(2) 中学年部会 (第4学年)

中学年分科会では、単元の前半で、基本的な技の習得を図るために技のポイントを知ること重点を置いた。後半では、自ら課題を設定し、自分の力に応じた技に取り組むようにした。その際、児童用資料を活用させ「めあてや練習の場を選択すること」ができるようにした。また、易しい場や条件のもとで運動させることで、できる楽しさや喜びを全員に味わわせ、進んで運動に取り組めるようにした。

ア 単元の目標

技 能	自分の力に合った基本的な支持跳び越し技 (切り返し系、回転系) や自己の能力に適した発展技ができるようにする。
態 度	運動に進んで取り組み、きまりを守り励まし合って運動をしたり、場や器械・器具の安全を確かめたりすることができるようにする。
思考・判断	自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるために練習方法や場を選ぶことができるようにする。

イ 単元の評価規準

○第3学年及び第4学年共通の評価規準 ●第4学年の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能
単元 の 評 価 規 準	○技ができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。 ○きまりを守り、仲よく運動しようとしている。 ○器械・器具の安全を確かめようとしている。	○技のポイントを知り、技ができるようになるための運動の行い方を工夫している。 ○自分の力に合った課題をもち、技ができるようになるための運動の行い方を工夫している。	○基本的な技に取り組むことができる。 ○自分の力に合った基本的な切り返し系の技ができる。 ●自分の力に合った基本的な回転技ができる。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	①技ができる楽しさや喜びに触れることができるよう、跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。(観察) ②友達と協力して、器械・器具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。(観察) ③友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。(観察) ④運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。(観察)	①基本的な動き方や技のポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。(観察・学習カード) ②基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。(観察・学習カード)	①基本的な技を調べることができる。(観察) ②自分に合った基本的な切り返し系の技ができる。(観察) ③自分に合った基本的な回転技ができる。(観察)

ウ 本時の学習（6／8時間目）

（ア） 目標

【技能】 自分に合った基本的な切り返し系の技ができるようにする。

【態度】 友達と協力して、器械・器具の準備や片付けができるようにする。

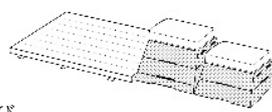
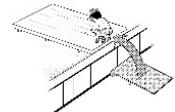
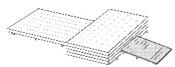
【思考・判断】 基本的な技のポイントを理解し、自分の力に合った練習方法や練習の場を選ぶことができるようにする。

（イ） 展開（※本時では、技能と思考・判断を主として評価する。）

学習内容・活動	教師の支援（○）評価（☆）評価方法【 】
1 整列・挨拶をする。 2 本時の学習内容を確認する。 3 準備運動をする。 4 場の準備をする。 5 感覚づくりの運動をする。 ・足を開いたうさぎ跳び ・連続うさぎ跳び ・かえる倒立 ・かえるの足打ち	○活動の見通しがもてるように1時間の流れを掲示する。 ○使う部位を中心にしっかりほぐすように指導する。 ○準備を素早く、安全にするように言葉掛けをする。 ○手をしっかり着き、肘を伸ばして、手のひらに体重のをせるように言葉掛けをする。
6 開脚跳びの技に関連した易しい運動をする。 ・重ねマット上に1～2段 7 自分の課題に応じた練習をする。	○着地の位置が少しずつ前になるために、肩を前に出すように助言する。
・開脚跳び ・大きな開脚跳び ・かかえ込み跳び	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 練習する技やめあてが同じ人同士でグループを編成し、教え合いをする。 </div> ○補助の仕方や場の確認をし、安全に取り組めるようにする。 ○自分の力に応じた練習の場を選ぶよう言葉掛けする。 ☆基本的な技のポイントを理解し、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 <div style="text-align: right;">【思考・観察】</div> ○適宜、良い動きを全体で共有し、価値付ける。 ○友達の動きを見て、励ましの言葉掛けをしている児童を称賛し、全体に広める。 ○技のポイントが分からなくなってしまった児童には、資料を見て確認するよう助言する。 ☆自分に合った基本的な切り返し系の技ができる。 <div style="text-align: right;">【技能・観察】</div>
8 整理運動をする。 9 学習の振り返りをする。 10 片付けをする。 11 整列・挨拶をする。	○よく使った部位をほぐすようにする。 ○自分の動きを振り返り、学習カードに記入させる。 ○学習中の児童のよさを紹介し、称賛する。 ○安全に気を付け、声を掛け合いながら片付けさせる。

エ 指導と評価の計画

時		1	2	3
ねらい		学習のねらいを知ることができる。	開脚跳びのポイントを知り、運動に取り組むことができる。	台上前転のポイントを知り、運動に取り組むことができる。
学習の流れ	0	<p>オリエンテーション</p> <p>○学習の進め方を知る。</p> <p>1 学習課題の確認</p> <p>2 準備運動</p> <p>3 感覚づくりの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> かえる倒立 馬跳び <p>4 器械器具の準備の仕方や約束の確認</p> <p>5 基本となる技を試す</p> <ul style="list-style-type: none"> 開脚跳び 台上前転 	<p>1 学習課題の確認</p> <p>2 準備運動</p> <p>3 感覚づくりの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> 足を開いたうさぎ跳び <p>4 開脚跳びの易しい運動</p> <ul style="list-style-type: none"> 連結跳び箱でまたぎ越し <p>5 開脚跳びのポイントを知る。</p>	<p>1 学習課題の確認</p> <p>2 準備運動</p> <p>3 感覚づくりの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> かえるの足打ち <p>4 台上前転の易しい運動</p> <ul style="list-style-type: none"> マット上に細マット <p>5 台上前転のポイントを知る。</p>
	45	<p>ペアやグループを決め、運動を見合う活動の仕方、準備や片付けの仕方を確かめる。単元を通して同じグループにする。</p> <p>6 整理運動</p> <p>7 本時の振り返り</p>	<p>6 工夫した場で練習する。</p> <p>ペアやグループで、両足の踏み切りや手を着く位置を見合い、ポイントを確認する。</p> <p>7 整理運動</p> <p>8 本時の振り返り</p>	<p>6 工夫した場で練習する。</p> <p>ペアやグループで、手の着く位置や頭の着き方を見合い、ポイントを確認する。</p> <p>7 整理運動</p> <p>8 本時の振り返り</p>
指導内容	技能	・基本的な技（開脚跳び、台上前転）		
	態度	・友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとする。		・運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめること。
	思・判		・開脚跳びのポイント、易しい場での取り組み方	
評価	関	③（観察）		④（観察）
	思		①（観察・学習カード）	
	技	①（観察・学習カード）		
予想される児童のつまずき及び手だてなど	技能	<ul style="list-style-type: none"> 初めて取り組む技は、無理をさせない。1回目なので、何ができて何が課題かを確かむことができれば良いことを伝える。 着地の時に3秒制止してポーズをすることを価値付ける。 	<p>【開脚跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○両足で踏み切れない。 →踏み切り板に目印をする。 ○恐怖心で跳び箱にまたがる。 →重ねたマットに跳び箱1段だけ乗せ、遠くに着地をするよう言葉掛けする。 ○手の突き放しが弱い。 →連結させた跳び箱で、前を向いて肘を伸ばすよう言葉掛けする。 	<p>【台上前転】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○腰が上がらない。 →『トン、トン、トーン』のリズムで頭の後ろを跳び箱の手前に着けるよう言葉掛けする。 ○落ちるのが怖い。 →まっすぐ回る感覚をつかむため、マットの上に置いた1段の跳び箱で練習させる。
	態度、思考・判断	・用具の持ち方をどうすればよいか指導し、できた時に称賛する。	・易しい場でできることも「できた」と捉え、自分の課題を把握し、解決していくことが今後の学習であることを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・次の人へ合図を送ったり、マットがずれたら直したりできるよう声を掛け、できた時に称賛する。 ・自分に合った高さで、より上手にできることを目標とさせる。

4	5	6	7	8
自分の課題に合った開脚跳びの練習をすることができる。			自分の課題に合った台上前転の練習をすることができる。	
1 学習課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 ・足を開いたうさぎ跳び ・連続うさぎ跳び ・かえる倒立 ・かえるの足打ち 4 切り返し系の技に関連した易しい運動 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">【第4時】 両足跳び乗り・ 跳び降り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">【第5時】 段差跳びで 開脚跳び</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">【第6時】 重ねたマット上 に1～2段</div> </div>  			1 学習課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 ・線を付けたマットで前転 ・かえるの足打ち 4 回転系の技に関連した易しい運動 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">【第7時】 マット上に 細マット1枚</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">【第8時】 マット上に 跳び箱1段</div> </div> 5 自分の課題に応じた練習【回転系】 ・台上前転 ・大きな台上前転 	
ペアやグループで、運動を見合いながら教え合うようにする。				
6 整理運動 7 本時の振り返り			6 整理運動 7 本時の振り返り	
		・自分に合った切り返し系の技(開脚跳び、大きな開脚跳び、かかえ込み跳び)		・自分に合った回転技(台上前転、大きな台上前転)
	・運動の行い方、友達と励まし合って運動すること。		・跳び箱運動に進んで取り組むこと。	
・基本的な技のポイントを理解し、自分の力に合った練習方法や練習の場を選ぶこと。		・基本的な技のポイントを理解し、自分の力に合った練習方法や練習の場を選ぶこと。		・基本的な技のポイントを理解し、自分の力に合った練習方法や練習の場を選ぶこと。
	②(観察)		①(観察・学習カード)	
②(観察・学習カード)		②(観察・学習カード)		②(観察・学習カード)
		②(観察)		③(観察)
【開脚跳び】 ○両手をそろえて着手でできない。 →跳び箱の奥のラインを「バン！」とたたくよう言葉掛けをする。 ※第2時参照	【大きな開脚跳び】 ○遠くから踏み切れず、遠くに着地できない。 →踏切調節板を入れて、跳ぶ。 →跳び箱の手前にゴムひもを張り、触れないように跳ぶ。	【かかえ込み跳び】 ○片手を放して跳んでしまう。 →かかえ込み用跳び箱で手の突き放しを強くする。 ○跳び箱の上に正座してしまう。 →胸に膝を引き付けて、足の裏で跳び箱に乗るよう言葉掛けをする。	【台上前転】 ○頭の頭頂部を着けて回ってしまう。 →重ねたマットで後頭部を着けて、まっすぐ回るよう言葉掛けをする。 ※第3時参照	【大きな台上前転】 ○回転中に膝が伸びない。 →踏み切った直後に膝を伸ばして、足を振り下げるよう言葉掛けをする。
○自分の力に応じて技を選ぶよう、前時の振り返りの際、取り組みたい運動を決めさせておく。	○どの位置で友達の運動を見るかを指導し、できていたら称賛する。友達の動きのどこを見るか指導する。	・取り組んでいる技が適切であることを称賛する。	・これまでできるようになったことを伝え、成長を認めるようにする。	・自分のめあてが分かっているれば称賛し、取り組み方が適切かどうか支援する。

(3) 高学年部会 (第5学年)

高学年分科会では、運動を苦手と感じる児童への手だてとして、一単位時間の中に①感覚づくりの運動を行う時間、②易しい場や条件で取り組む時間、③自分の伸びを確認する時間(ミニ発表)を取り入れ、一人一人の課題に応じて指導することとした。また、単元の前半で切り返し系、後半で回転系の技にじっくり取り組むことで、学習の振り返りを次時に生かすことができ、確実に技能を身に付けられると考えた。

ア 単元の目標

技 能	基本的な支持跳び越し技(切り返し系、回転系)に取り組み、それぞれの系について自己の能力に適した技が安定してできるようにする。
態 度	運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
思考・判断	自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるために練習の場や段階を選ぶことができるようにする。

イ 単元の評価規準 第5学年及び第6学年共通の評価規準 ●第6学年の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	○技を高める楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで跳び箱運動に取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようしたり、運動する場や器械・器具の安全に気を配ろうとしたりしている。	○自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。	○跳び箱運動について、安定した基本的な技ができる。 ●跳び箱運動について、安定した基本的な技や、その発展技ができる。
学習活動に即した評価規準	①技ができたり、高めたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで運動に取り組もうとしている。(観察) ②約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。(観察) ③器械・器具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。(観察) ④運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。(観察)	①課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の方法や場を選んでいる。(観察・学習カード) ②自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようになるための運動の行い方を工夫している。(観察・学習カード)	①自分の力に合った安定した基本的な切り返し系の技ができる。(観察) ②自分の力に合った安定した基本的な回転系の技ができる。(観察) ③自分の力に合った切り返し系の発展技ができる。(観察)【6年】 ④自分の力に合った回転系の発展技ができる。(観察)【6年】

ウ 本時の学習案（3／7時間目）

(ア) 目標

- 【技能】** 自分の力に合った切り返し系の技を行うことができるようにする。
- 【態度】** 跳び箱運動に進んで取り組み、約束を守って運動できるようにする。
- 【思考・判断】** 自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようになるための運動の行い方を工夫できるようにする。

(イ) 展開（※本時では技能と思考・判断を主として評価する）

主な学習内容・活動	教師の支援（○）評価（☆）評価方法【 】
1 整列・挨拶をする。 2 本時の学習内容を確認する。 3 準備運動をする。 4 感覚づくりの運動に取り組む。 ・あざらし歩き ・うさぎ跳び ・馬跳び ・ケンゲージャンプ ・かえるの足打ち 5 場の準備をする。	○自分の技能の段階を適切に把握させる。 ○特に使う部位を意識するよう言葉掛けをする。 ○協力して安全に行うよう言葉掛けをする。 ○一つ一つの動きのポイントを押さえるよう助言する。
6 易しい運動に取り組む。 ・ステージ、重ねたマットへ跳び乗り 7 かかえ込み跳びのポイントを知る。 ・学習カードから、かかえ込み跳びのポイントを知る。 8 場を選んで練習をする。 ・自分の課題に合った場を選び練習をする。 ・グループの友達と見合い、教え合いをする。 9 ミニ発表をする。 ・本時の成果をグループ内で発表し、自分の技能の伸びや課題を見付ける。	○かかえ込み跳びの技能の向上につながる運動であることを伝える。 ○ポイントを紹介し、理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・肩より腰が高くなるようにドンッと強く踏み切る。 ・跳び箱の奥側に手を着いて、バンッと強く突き放す。 ・膝を胸にすばやくギュッと引きつける。 ・顔を上げ、膝を曲げてピタッと着地する。 </div> ○自分の課題に応じた練習の場を選べるよう助言する。 ☆自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようになるための運動の行い方を工夫している。 <p style="text-align: right;">【思考・判断：観察】</p> ○適宜、良い動きを全体で共有し、価値付ける。 ○技能の上達が見られる児童や、活発な教え合いができていないグループを称賛する。 ○教え合いができていないグループには、学習資料を参考にして見合うよう助言する。 ○友達の技能の伸びや課題を見付け、伝え合うよう言葉掛けをする。 ☆自分の力に合った切り返し系の技を行うことができる。 <p style="text-align: right;">【技能：観察】</p>
10 整理運動をする。 11 学習の振り返りをする。 ・めあての修正をしたり新たなめあてを立てたりする。 12 片付けをする。 13 整列・挨拶をする。	○使用部位を中心にストレッチを行わせる。 ○めあてが達成できたかどうか確認させる。 ○協力して安全に行うよう言葉掛けをする。

エ 指導と評価の計画（第5学年）

時	1	2	3	
ねらい	今、自分のもっている力で運動に取り組み、自分の力を知ることができる。	安定した開脚跳びをするためのポイントを知り、運動に取り組むことができる。	かかえ込み跳びをするためのポイントを知り、運動に取り組むことができる。	
学習の流れ	0 オリエンテーション ○学習の進め方を知る。 1 学習課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 器械器具の準備の仕方や約束の確認 5 基本となる技を試す。 6 整理運動 7 本時の振り返りをする。	1 学習の課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 場の準備 5 開脚跳びの易しい運動に取り組む。 6 安定した開脚跳びのポイントを知る。 ・両足をそろえて、踏み切る。 ・跳び箱の奥に、両手で一緒に手を着く。 ・遠くを見て、手で強く突き放す。 ・膝を曲げて着地する。 7 場を選んで練習する。 8 ミニ発表 9 整理運動 10 本時の振り返りをする。	1 学習の課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 場の準備 5 かかえ込み跳びの易しい運動に取り組む。 6 かかえ込み跳びのポイントを知る。 ・肩より腰が高くなるようにドンッと踏み切る。 ・跳び箱の奥側に手を着いてパンッと強く突き放す。 ・膝を胸にすばやくギュッと引き付ける。 ・顔を上げ、膝を曲げてピタッと着地する。 7 場を選んで練習する。 8 ミニ発表 9 整理運動 10 本時の振り返りをする。	
	45			
指導内容	技能	・自分の力に合った切り返し系の技をすること。	・自分の力に合った切り返し系の技をすること。	
	態度	・器械や器具の準備や片付けをしようとし、自分の役割を果たすこと。 ・運動する場面での危険な例を知り、安全に気を配ること。	・進んで運動に取り組むこと。 ・運動をするときの約束を知り、友達と助け合って運動すること。	
	思・判		・自己の能力に適した課題解決の仕方を知り、自分の課題に合った練習の場や段階を選ぶこと。 ・かかえ込み跳びのポイントを理解し、技ができるようになるための運動の行い方を工夫すること。	
評価	関	③（観察）④（観察）	①（観察）②（観察）	
	思			①（観察・学習カード）
	技		①（観察）	①（観察）
予想される児童のつまずき及び手だてなど	技能	○既存の学習で行った技を振り返り、何ができて何が課題かをつかむことができれば良いことを伝える ○初めて取り組む技は、無理をさせない。 ○着地の時に3秒制止してポーズをすることを価値付ける。	【安定した開脚跳び】 ○両足で踏み切れない。 →踏み切り板の両足をそろえるための目印を付ける。 ○跳び箱の上に乗ってしまう。 →連結させた跳び箱や跳び箱の両側に台を置いてまたぎ乗り、またぎ下りをさせる。 ○跳び箱の手前に手を着く →ライン入り跳び箱で奥に手を着くように指導する。	【かかえ込み跳び】 ○足が当たってしまう。 →重ねたマット、ステージへの跳び乗りをするよう指導する。 ○跳び箱の上に正座してしまう。 →胸に膝を引き付けて、足の裏で跳び箱に乗るよう指導する。 ○跳び箱の上に乗ってしまう。 →1段差の連結させた跳び箱で跳び越すよう指導する。
	態度、思・判	・用具の持ち方、準備や片付けの仕方を振り返り、安全に気を配るように声を掛ける。 ・運動の行い方について、次の人へ合図を送ったり、マットのずれを直したりする児童を称賛する。	・易しい場でできることも「できた」と捉え、少しずつ条件を難しくすることが今後の学習であることを伝える。	・自己の課題を的確に捉え、自分の力に合った場や練習方法に取り組んでいる児童を称賛する。

4	5	6	7
自分の課題に合った練習の方法や場を選ぶことができる。	安定した台上前転のポイントを知り、運動に取り組むことができる。	自分の課題に合った練習の方法や場を選ぶことができる。	支持跳び越し技に取り組む、自分の力に合った技ができる。
1 学習の課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 場の準備 5 場を選んで練習する。 <u>切り返し系</u> ・安定した開脚跳び ・かかえ込み跳び (・大きな開脚跳び) 6 ミニ発表 ・踏み切り、着手、着地を視点にして見合うようにする。 7 整理運動 8 本時の振り返りをする。	1 学習の課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 場の準備 5 台上前転の易しい運動に取り組む。 6 安定した台上前転のポイントを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・両足で強く踏み切る。 ・跳び箱の手前側に両手を着いて、腰を高く上げる。 ・あごを引き、頭の後ろを着いて、前転する。 ・胸を膝に着けるようにしながら、回転し着地する。 </div> 7 場を選んで練習する。 8 ミニ発表 9 整理運動 10 本時の振り返りをする。	1 学習の課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 場の準備 5 場を選んで練習する。 <u>回転系</u> ・安定した台上前転 ・台上前転 (・大きな台上前転) 6 ミニ発表 ・踏み切り、着手、着地を視点にして見合うようにする。 7 整理運動 8 本時の振り返りをする。	1 学習の課題の確認 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 場の準備 5 技や場を選んで練習する。 <u>切り返し系・回転系</u> 6 ミニ発表 ・踏み切り、着手、着地を視点にして見合うようにする。 7 整理運動 8 本時の振り返りをする。
	・自分の力に合った回転系の技をすること。		・自分の力に合った切り返し系・回転系の技をすること。
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題解決の仕方を知り、練習の場や段階を選ぶこと。 ・切り返し技のポイントを理解し、技ができるようになるための運動の行い方を工夫すること。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題解決の仕方を知り、練習の場や段階を選ぶこと。 ・回転系のポイントを理理解し、技ができるようになるための運動の行い方を工夫すること。 	
②(観察・学習カード)		②(観察・学習カード)	
	②(観察)		①(観察) ②(観察)
※前時までの切り返し系の学習から、「努力を要する」状況と判断される児童の取り組む技に対して、場や練習方法、運動の行い方を個別に指導する。	【安定した台上前転】 ○頭頂部を着けて回ってしまう。 →重ねたマットで後頭部を着けて、まっすぐ回るよう指導する。	※前時の回転系の学習から、「努力を要する」状況と判断される児童の取り組む技に対して、場や練習方法、運動の行い方を個別に指導する。	※前時までの学習から、「努力を要する」状況と判断される児童の取り組む技に対して、場や練習方法、運動の行い方を個別に指導する。
・友達の運動を見る位置がどこかを指導し、できていたら称賛する。友達の動きのどこを見るかを指導する。	・易しい場でできることも「できた」と捉えるよう指導し、「できた」ことを称賛する。	・友達の運動を見て、励まし合ったり、補助したりしている児童を称賛する。	・できるようになったことや力が伸びたことを称賛する。

V 検証授業の結果及び考察

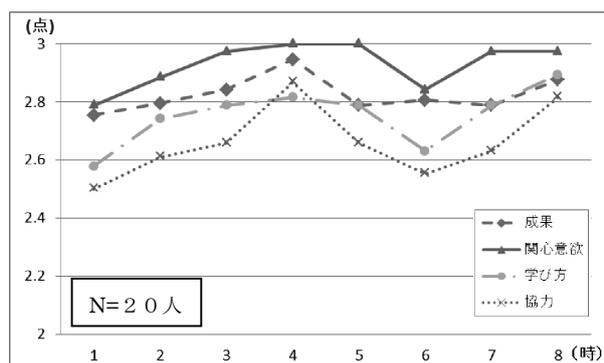
平成25年10月から平成25年11月までに、本部会教員が所属する都内公立小学校の第2学年、第4学年、第5学年において検証授業を行った。

毎時間、授業の終わりに、成果（技能面）、関心意欲、学び方、協力に関する項目について自己評価を行わせる形成的授業評価とともに、単元前と単元後に撮影したビデオ映像を基に指導の有効性を検討した。

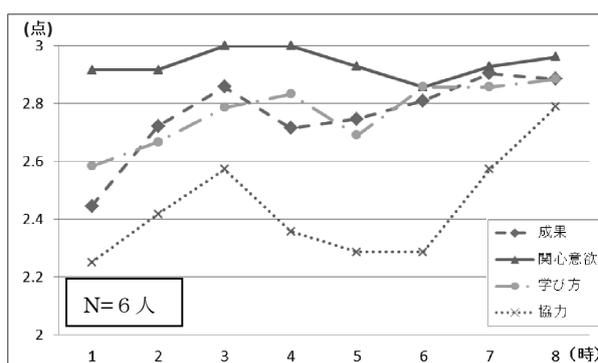
1 形成的授業評価から

【第2学年】

形成的授業評価（3点満点平均値）

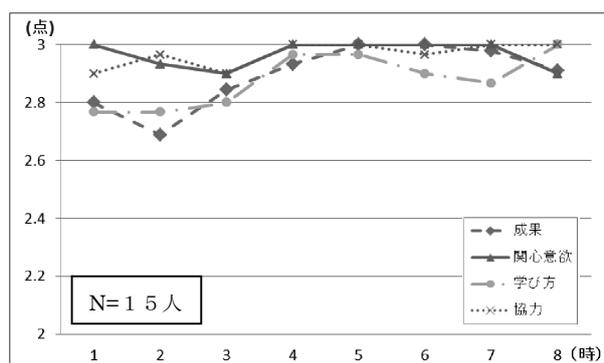


A群

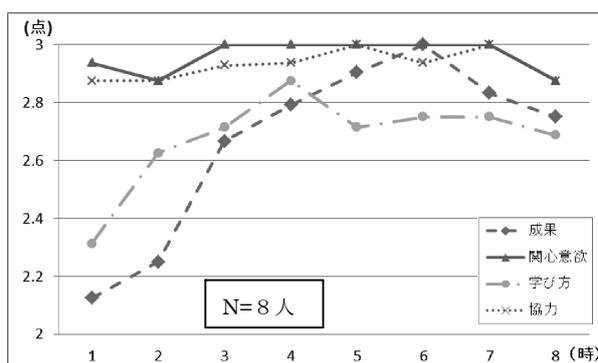


B群

【第4学年】

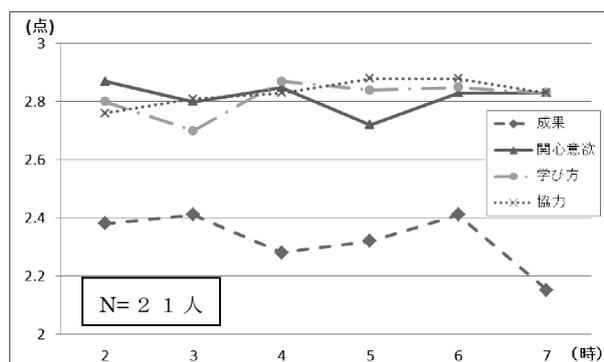


A群

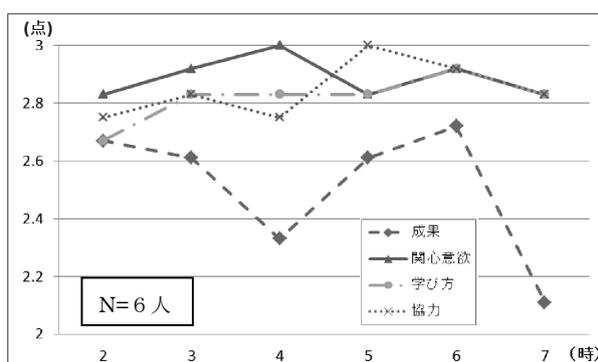


B群

【第5学年】



A群



B群

※各学年の単元前に撮影したビデオ映像を基に、技能面で「十分満足できる」状況及び「満足できる」状況と判断した児童をA群、技能面で「努力を要する」状況と判断した児童をB群として、それぞれの形成的授業評価を分析した。

【第2学年】

学習の進め方を知る又は学習の進め方が変わる1時間目、5時間目の授業の評価はどの項目も他の時間に比べて低い。これは、学習の見通しがもてないためと考えられる。B群は全体を通して「協力」の評価が低い。これは、友達の動きのよさを見取り伝え合うための指導が十分でなかったためと考える。一方、6～8時間目の成果や学び方の評価が向上傾向にあることから、毎時間のねらいを絞り、手だてを明確にした上で指導したこと、様々な場や動きを十分楽しむ「セレクト3」の活動が効果的であったと考える。また、振り返りの時間などを活用し、友達のよさを広め、認め合う雰囲気をつくり出したこと、動きのポイントを言語化させることで児童は動き（技能）の伸びを実感し、次の目標をもつことができたと考える。技能面で「努力を要する」状況と判断される児童にとって、場を選び、めあてをもって活動する学習スタイルは児童の意欲を高める上で有効であったと考える。

【第4学年】

単元を通して、「関心・意欲」の評価が高い。このことから、易しい運動を行うことでできる楽しさや喜びを味わい、安心感をもって進んで運動ができたものとする。また、自分の力に応じて場を選択し、意欲的に活動したことがうかがえる。しかし、B群は、5時間目以降、「学び方」の評価が低くなった。これは、自分のめあてに合った場を選ぶための指導が十分でなかったためと考える。さらに、3時間目に台上前転のポイントを指導し、第7時間目に回転系の技を指導することを踏まえ、児童が適切なめあてを立て学習に取り組むことができるよう学習カードの構成を工夫する必要がある。

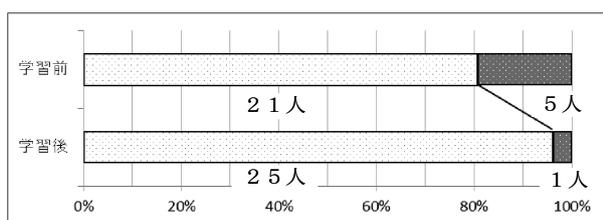
【第5学年】

A群、B群とも、関心・意欲の評価が単元全体を通して2.5点を上回っている。これは、技に関連した易しい運動やミニ発表に取り組んだことが有効だったと考えられる。一方、B群の成果の評価は、単元全体を通して2.5点を下回っている。着手や踏み切りなど、児童の技能の伸びを教師が褒め価値付けること、児童が選んだ場が適切であるか再考させるなどの指導が十分でなかったためと考える。また、A群、B群ともに4時間目と7時間目の成果の評価が低いことから、技に関連した易しい運動に取り組む時間を毎時間設定する必要があると考える。

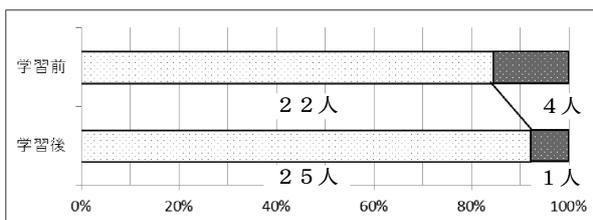
2 単元前・単元後のビデオ映像から

- ※  は、技能面で「十分満足できる」状況及び「満足できる」状況と判断した児童
-  は、技能面で「努力を要する」状況と判断した児童

【第2学年】

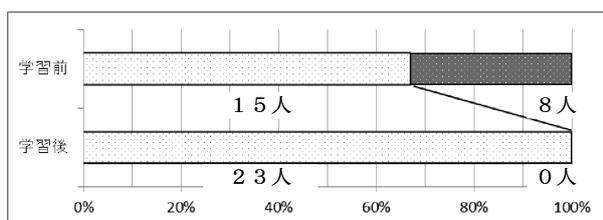


踏み切りの変容 (またぎ乗り)

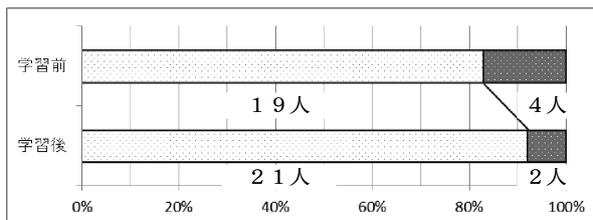


着手の変容 (またぎ乗り)

【第4学年】

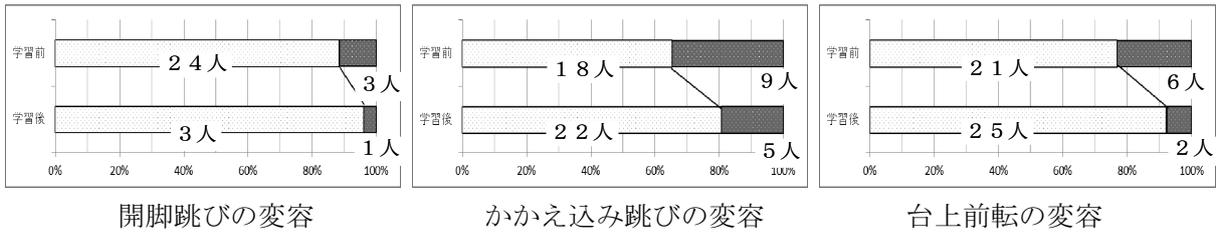


開脚跳びの変容



台上前転の変容

【第5学年】



【第2学年】

「またぎ乗り」の技能面で「努力を要する」状況と判断した児童は、踏み切りにおいて5人から1人、着手において4人から1人となった。単元終了後、技能面において「努力を要する」状況と判断した2人の児童は、練習時に教師や友達の支援を受けることで動きが「できていた」ことを踏まえると、動きが定着するための指導が必要であったと考える。

単元後半に「がけコース」「一本橋コース」を中心に選び、取り組んだ児童は、その他のコースを選んだ児童よりも動きが高まった。このことから、踏み切りと着手の動き、腕を支点にした体重移動の動きが求められる場の有効性が認められた。また、「ピタッと着地しよう」など、児童が動きをイメージできるような具体的な言葉掛けをすることで、様々な動きを引き出すことができた。このことが運動する意欲にもつながっていた。

【第4学年】

開脚跳びの技能面で「努力を要する」状況と判断した児童は、単元終了後8人から0人となった。これは、児童用資料を使って技のポイントを理解させるとともに、めあてや場を選択させ、易しい場から段階的に指導したことが効果的だったと考える。特に、高低差のある跳び箱を連結させた場において、着手よりも肩を前に出して、腰を高くする一連の動作を身に付けさせることができた。台上前転の技能面で「努力を要する」状況と判断した児童は、4人から2人となった。恐怖心を取り除くことや頭頂部について回転する児童に対する指導が十分でなかったと考える。技に関連した易しい運動を数多く経験させ、できる楽しさを味わわせる場の設定が必要であった。

【第5学年】

単元前に技能面で「努力を要する」状況と判断した児童は、開脚跳び3人、かかえ込み跳び9人、台上前転6人であった。単元終了後に技能面で「努力を要する」状況と判断した児童は、開脚跳び1人、かかえ込み跳び5人、台上前転2人であった。授業では、技の習得を図るために、易しい場を用意し、段階的に指導した。また、つまずきに応じて言葉掛けや直接的な補助を行った。しかし、単元終了後、全ての児童に技能を身に付けさせることができなかった。第6学年時においても、技に関連した易しい運動に繰り返し取り組ませ、課題の解決を図ることができるよう、段階的に指導する必要がある。

VI 成果と課題

本研究では、運動を苦手と感じる児童、運動することに前向きでない児童及び技能面において、「努力を要する」状況と判断される児童に焦点を当て、運動の楽しさや喜びを味わわせるとともに、動きや技能が伸びる指導の在り方を明らかにすることを目的とし、研究を進めた。その結果、以下のことが明らかとなった。

- 技能のポイント及びつまずきを明確に示し、指導したことで、児童は運動の課題を把握し、その解決に向けて意欲的に活動することができた。
- 一単位時間の中で、感覚づくりの時間、易しい場で取り組む時間、技（動き）に取り組む時間を設定し、段階的に指導したことは、技（動き）を習得する上で有効であった。
- 技能面において予想される児童のつまずきと、それに応じた手だてを明らかにし指導と評価の計画に毎時間位置付けたことは、つまずきに応じた指導の充実につながり、技（動き）を習得させる上で有効であった。
- 動きや技能を一層向上させるために、感覚づくりの運動、技に関連した易しい運動等で取り組む動きについてより効果的な動きを提示できるようさらに検討する。
- 動きや技能を一層向上させるために、単元後半に、技（動き）に取り組む時間を、児童の実態に応じて十分に確保できるよう指導と評価の計画を改善する。

<引用文献及び参考文献>

1	中央教育審議会答申		平成20年1月
2	小学校学習指導要領	文部科学省	平成20年3月2
3	小学校学習指導要領解説 体育編	文部科学省	平成20年8月
4	中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省	平成20年9月
5	高等学校学習指導要領 保健体育編・体育編	文部科学省	平成21年12月
6	小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック	文部科学省	
7	評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校体育】	国立教育政策研究所	平成23年11月
8	総合的な子供の基礎体力向上方策（第2次推進計画）	東京都教育庁指導部指導企画課	平成25年2月
9	適正で信頼される評価の推進に向けて	東京都教育委員会	平成24年3月
10	「東京の教育21」 研究開発委員会小学校体育資料集		平成16年度

平成25年度 東京都教育研究員名簿 小学校・体育

地区	学校名	職名	氏名
新宿区	新宿区立落合第五小学校	主任教諭	西島 秀一
文京区	文京区立礪川小学校	主任教諭	新濱 英貴
墨田区	墨田区立隅田小学校	主任教諭	田中 芳明
江東区	江東区立第一亀戸小学校	主任教諭	佐々木 渉
品川区	品川区立豊葉の杜学園	主任教諭	田中 茂樹
大田区	大田区立馬込第二小学校	主任教諭	浜田 智訓
世田谷区	世田谷区立東玉川小学校	主任教諭	川村 健輔
杉並区	杉並区立堀之内小学校	主任教諭	高橋 史記
荒川区	荒川区立第三日暮里小学校	主任教諭	西 雄一
練馬区	練馬区立大泉学園緑小学校	主幹教諭	○高橋 浩一
葛飾区	葛飾区立綾南小学校	主任教諭	杉本 啓輔
江戸川区	江戸川区立西一之江小学校	主幹教諭	○藤田 健
八王子市	八王子市立愛宕小学校	主幹教諭	◎田中 大輔
府中市	府中市立府中第四小学校	主任教諭	古賀 聖朗
府中市	府中市立府中第六小学校	主任教諭	北川 修司
小平市	小平市立学園東小学校	主任教諭	石井 健
国分寺市	国分寺市立第四小学校	主任教諭	舩木 司
福生市	福生市立福生第六小学校	主任教諭	山本 博
東大和市	東大和市立第九小学校	主任教諭	佐藤 太
稲城市	稲城市立若葉台小学校	主任教諭	岐津 明

◎総世話人 ○分科会世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課指導主事 佐久間 浩一

平成25年度
教育研究員研究報告書

小学校・体育

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 昭和商事株式会社